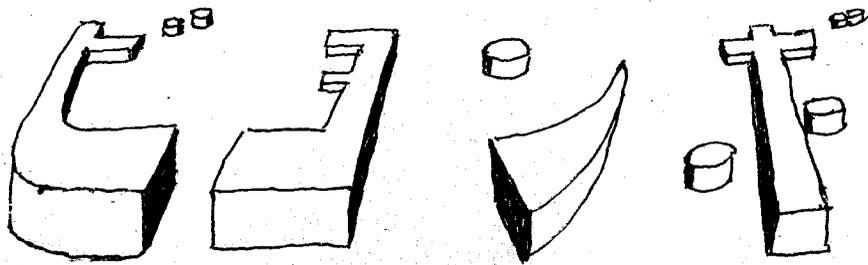


①

177号



通信

編集 荒川勝巳

2014年9月29日発行

S.F.O.

P.O.Box 10 Kitengela 00242 KENYA

ほとんどの死者が出なかったもの、
とがあり、リベリアやシエラレオネ
が隣りの国ウガンダで発症したこ
このエボラ熱はすでに過去何度
ナイロビを目撃するようになった。

隣国の空港に下りた者、陸路
は効果か疑問視されている。タ
フなアフリカのビジネスメンたち
はナイロビ空港を使えなくとも、
一時停止にした。しかしこの措置
ケニア政府は、シエラレオネなど
西アフリカ4カ国からのナイロビ
空港への飛行機乗り入れ便を

エボラ熱の流行を防ぐために
エボラ熱の流行が緊急事
態になつています。

アフリカの地図



このところ日本では豪雨が
つづき、広島ではこの災害のた
め多くの人が亡くなされました。お
くやみ申し上げます。
ここケニアでは雨が少なくキ
ンガバ配されませんが、アフリカ
全体を眺めれば、なんといつても
エボラ熱の流行が緊急事
態になつています。

国時も当然こゝんを洗礼を受け
これを帰りのナイロビ空港入
前には手を石ケンで洗わされた。
さすがエボラ熱先進国は違う。

空港でのエボラ熱警戒はたい
したもので、イミグレの紙を書く
前に手を石ケンで洗わされた。
さすがエボラ熱先進国は違う。
これを帰りのナイロビ空港入
前には手を石ケンで洗わされた。
さすがエボラ熱先進国は違う。

友人にそのことをたずねてみた。
この友人は、ウガンダでもごく
限られた地域で発症している
だけ。それにウガンダ厚生省
は患者を見つけたらすぐ隔
離して拡がらぬようにしてい
るので、まったく心配してない
と意に介していかかった。私は
この言葉を聞いてひどく感じし
たことを覚えておいて。

そのたびにケニア人を震え上がら
せている。そのためケニア人たちはあ
る程度エボラ熱についての知識
を持つていたので、ケニアで発症者
が出て、もう簡単に拡がるこ
とはないと思われる。
私はエボラ発症時のウガンダを
訪ねたことがある。ただ私が
滞在した地域はこの発症地か
ら離れていたのだが、私はエボラ
熱が不安だったので、ウガンダ人の
友人にそのことをたずねてみた。
この友人は、ウガンダでもごく
限られた地域で発症している
だけ。それにウガンダ厚生省
は患者を見つけたらすぐ隔
離して拡がらぬようにしてい
るので、まったく心配してない
と意に介していかかった。私は
この言葉を聞いてひどく感じし
たことを覚えておいて。

園してきたイザバラ(4名)が毎
よう容赦なく指導している。
もを呼び寄せ、きちんとする
かなつてない時には担当の子ど
くり台所を見渡して、後片づけ
らいはきちんとしてせようと、じっ
る。夕食後も台所の後片づけく
のこと子どもたちへ注意してい

施設のダイニングのテーブルは放
つておくと乱雑に並べられている。
食事時になつてもテーブルが汚
れている。私はしよつちゅうこれら
のことを子どもたちへ注意してい

▼イザバラの謎
手押し
スプ
前ス
の洗
しを
が吹
を吹



るだろう。ただでさえ混雑して
いるこの空港イミグレなので、
「これでは相当時間が潰れるだ
ろう」と憂うつになる。ところが
ナイロビ空港ではいつさいそれが
なく、すんなり通つてしまった。ナ
イロビ空港はエンテバ空港より
ずうと利用者が多いからかも
しれないが、こゝんなことではケニア
はエボラ熱におかされるのでは
と逆に心配になつてしまった。

日後片づけをするようになってから、少し手かげんするようになった。

イザベラは今年、小学8年生で、この11月にある大事な卒業試験（この成績の良し悪しによって、次の高校進学が決まる）をひかえ、学業に忙がしい。学校

である補習授業を終えてサイディアへ戻ってくるのが晩飯時になり、その後の自習時間では脇目もふらず、ひたすら勉強に励んでいるので、本当は彼女に後片

づけもやらせずにもっと学業へ励ませたいと思ふのだが、家事を手伝わせている施設、他の子どもの手前、もうもいかない。

台所



それで私は晩飯後の台所が汚れていると、ダイニングで自習している子どもたちへ「誰がやったんだ」と叫ぶ。すると子どもたち

の一人が気のない声で「イザベラ」と答える。テーブルに向かうつむいて学習しているイザベラは顔色を変

えずに「さうと立ち上がり台所へやってきて、サツサツと丸く後片づけをして、またすぐ勉強に取り組む。他の子どもたちは何事もなかったように自習を続けている。

| | | | | | |
|----|----|----|----|----|-----|
| 年齢 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 教育 | 大学 | 高校 | 中学 | 幼稚 | 幼稚園 |
| 国籍 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 |

私がイザベラについて知っている彼女が施設に入っている前の境遇は以下のとおり。

彼女は5才の時に海岸地方のモンバサ市で、シングルマザーの母をたたく。彼女は親せきに引き取られ、たが兄妹はまた別を親せきに引き取られて、それ以来会っていない。彼女を引き取った親せきは彼女をメイドとして扱かいギャクタイを

こういう子どもの場合、普通学校の成績が悪く行儀もよくなく、陰りをもっている。しかし彼女は成績よくまじめで行儀よく、陰りを感せずもない。イフモスガスガしい顔つきをして、他の子どもとの協調性もあり、すでに施設小學生のリーダー格になり、非常にしっかりしている。そしてサイディアでの生活

があつてはるよう、成績が上向いている。私はイザベラについて「こういう子どもは我々がまだ境遇についてよく知らないだけで、過去に彼女を支えるなにかを経験しているにちがいない。たとえば亡くなったお母さんか彼女を強く愛し面倒をよくみていたというような。」ということを想像してみた。

そんなある夕方、イザベラは1組のケニア人夫妻とともに学校から帰ってきた。イザベラの友人とのこと。その妻は「イザベラはクラスで成績がノ番になったので、とても喜んでいいます。彼女が住んでいる場所をひとめ見たかったので、やってきました。」と目を輝やかせて述べた。彼らはイザベラについてよく知っていて、イザベラを下からせてから、アズマ屋で彼女の境遇について話を聞かせてもらった。

イザベラを引き取ったキレンゲラの親せきは比較的裕福だったので、彼女を私立小学校へ編入させるとともに、メイドとして扱った。友人夫妻はこの親せきの近所に住み、自分たちの子どもをイザベラと同じ小学校へ通わせていた事情から、彼女を知り合うようになった。そしてこの親せきも彼女をギャクタイしているのを知

るに扱ふ。夫妻はこの小学校を経営している牧師さんにお願ひしてイザベラの授業料を無料にしてもらうと同時に、彼女が安全に住める場所を探してもらった。



彼らはイザベラがサイディア施設で大事に扱われているのを見てほっとしていた。私は彼らの話しを聞いて「イザベラがいつも快活でいられるのは、彼らや牧師さんがついているからだと感じ

た。この夫妻は「イザベラの高校進学が気がかりで、カルリ園長と話したい」とのこと。それで私はケニアライオンズクラブの運営委員たちがいづも「成績のよい孤児がいるなら我々が経営している寮制高校に無料で入学させてもよい」と申し出ていたことを思い出した。この高校はナイロビにあり、設備が整っている金持ち子弟が入っている。彼女には適している。

が勤めはじめた。だから社会に出てはじめての職場がサイディア工房ということになる。彼女に限らず、彼女より先輩も先輩もサイディア工房へ入る女性で辞めるケースが多い。それはおそろしく、彼女らが裁ほう教室からそのまま工房へ移動しているだけなので、社会へ出るという感覚をあまり持たずに(我々は裁ほう教室と工房では違ふのだと説明しているが)いるためだと考えられる。それで工房でちよつといやなことがあると嫌気がさしてしまふ。その点、同じ裁ほう教室生徒でも、卒業して一度他の仕事場を経験した人は大した理由もなく辞め



ることがまずない。それは彼女らがケニア社会で女性が一人生きていくことの難かしさを身を持って体験しているため。このような人々には労働条件のそれほど厳しくないサイディア工房での仕事も苦にならない。そして、そういう人を多くの卒業生のなかから見つけ出すことは難かしくない。これから新卒業生を雇うよりも、社会に一度出た卒業生を雇うほうがよいと思う。

◎この夏休みに施設の居残り組は博物館見学に行つたので、その様子をメリー(3巻)に書いてもらいました。
●博物館見学●
日曜の朝、私たちはナイロビにある国立博物館へ行ってきました。この博物館がある区域はケニア一般人のいこのために、自然が保護されています。そして博物館内にはたくさんさんの野生動物や鳥のハク製を見ることができました。また

4 見た人類誕生のころのスペ

スも設けてあり、人々は杖大な景色のなかで暮らしていました。多くの外国人観光客がここを訪れ、ケニアの伝統文化に親しんでいます。この博物館には絵画も展示され、本当に美しく心をなごませくれます。
博物館とその周辺の区域のみであった空気は私の心を新鮮にしてくれました。

●メリー●

▼結納と披露宴▲
7月19日の土曜日、早朝は肌寒かったが、昼前には寒さが柔らぐ、太陽が雲間から顔をだしはじめた。そんな天気のおかげ、私と妻とのケニア式結納と披露宴がおこなわれた。
午前中は結納をプロジェクト近くに住む妻の母宅(といつても石造り長屋の一室)で。獣医の神戸先生に私の父親代わりにお願いした。カルリ氏、マゴリスクールの早川千晶さん、マサイ夫人の永松マキさんなどには友人代表で加わっていた。遅れて少年ケニアの友の岸田信高さんも参加。いずれも私がケニアで長年お世話になつている方たちなので、感無量の想い。

この席で私側の神戸先生やカルリ氏など妻側の親せき代表数名で、私が妻の母へ贈る結納品である牛や山羊の数について交渉。牛5頭と山羊10頭に決まる。それで私は牛1頭と山羊3頭分をその場で現金で払い、カンガ布や砂糖などの物品も贈呈。残りの牛・山羊の費用は後日おあいと。
その後、みんなをプロジェクトの敷地へ移動。ここで待た構えていた施設の子どもたちやスタッフたちと合流。ここから披露宴。アズマ屋近くの2本の大木の下にイス・テーブルを出して、ケニア料理の昼食をとる。そして施設の子どもたちミニパフォーマンスやコーラス。
子どもたちはコーラスでケニア製アズマ屋を数曲歌ってくれた。そしてそのうち歌いながら私へ「アンコールにきてダンスしてよ」と呼びかけてくる。イスに座っていた私は、それでみんなの前へ出ていき、スピーカーから流れるミュージックにあわせてダンスをはじめた。次に私の妻が呼び出され、一緒にダンス。その後も親せきグループ、友人グループというふうに対で呼び出される。しまいに高齢の妻の母まで呼び出され、ダンスをしてみんなを歓喜させる。このダンスはいかにケニアらしくてよかった。

▼エゴトイレ▲
「リキシル」
を世界に広める会社がJICAと協力してエゴトイレをケニアに広めようとしている。サイディア工房はそのモニタリングの場所として選ばれた。環境を大事にしたトイレをのこせひたまるようお手伝いしたい。